

第3回(平成18年度)IODP 部会執行部会 議事録

日時:2006年7月6日(木) 13:30~16:30

場所:海洋研究開発機構東京連絡所 大会議室

出席者(敬称略)

執行部会長:鈴木徳行(北海道大学)

執行部員:阿波根直一(北海道大学) 荒井晃作(産業技術総合研究所) 石橋純一郎(九州大学)

海野進(静岡大学) 佐藤時幸(秋田大学) 佐柳敬造(東海大学)

白井正明(東京大学海洋研究所) 山本啓之(海洋研究開発機構)

オブザーバー

文部科学省:宮崎貴雄

海洋研究開発機構:木下正高 川村善久 鷲尾幸久 笹山岳大

事務局:山田泰 長橋徹 加賀谷一茶

欠席者(敬称略)

北里洋(海洋研究開発機構) 山田泰広(京都大学)

議事次第

1. 報告事項

国際SAS関連

(1) SASEC 委員選出報告:鈴木部会長

(2) SPC 委員選出報告(公募結果):事務局

(3) SPC 代理出席者報告:事務局

乗船関連

(4) New Jersey 追加乗船研究者募集結果:荒井、阿波根、事務局

(5) 「ちきゅう」下北沖試験航海協力研究者の募集結果報告:荒井、事務局

(6) 乗船研究者アンケート結果報告:阿波根、事務局

IODP 研究支援関連

(7) IODP 掘削プロポーザル作成支援(AESTO 実施)の経過報告:事務局

(8) 会員提案型活動経費上半期の募集結果報告:事務局

普及/広報活動関連

(9) IODP Australian Workshop について:石橋

(10) IODP 大学&博物館キャンペーン(番外編;信州大学)について:事務局

(11) J-DESC 新ホームページについて:事務局

2. 審議事項

国際 SAS 関連

- (1) 国際 SAS 委員会・パネル委員ローテーションルールについて：佐柳、山田、阿波根、事務局
- (2) 時期(2007年9月期) SPC 委員の公募について：事務局

乗船関連

- (3) NanTro SEIZE Workshop の対応について：石橋、阿波根、事務局

普及/広報活動関連

- (4) 第2回 IODP 報告会について(開催場所、日程など): 石橋、白井、阿波根
- (5) 次回 SSEP 会議(札幌)について：石橋
 - a) リエゾンとして丸山明彦科学推進部会長に出席いただくことの承認
 - b) 大学院学生のオブザーバー参加の可能性の議論
- (6) ISC2006(国際堆積学会) J-DESC 展示ブースについて：事務局
- (7) IODP 日本版のパンフレットについて：事務局
- (8) J-DESC News Letter について：事務局

3. その他

- (1) その他の報告事項など
- (2) 次回、執行部会日程

配布資料

- 資料3-1 「ちきゅう」下北沖試験航海協力研究者推薦者名簿(科学計測部会推薦書)
- 資料3-2 乗船研究者アンケート結果
- 資料3-3-1 会員提案型活動経費(上半期)募集結果
- 資料3-3-2 会員提案型活動経費・選考委員会について
- 資料3-4 IODP Australian Workshop 案内
- 資料3-5 IODP 大学&博物館キャンペーン予定表
- 資料3-6 J-DESC 新ホームページについて
- 資料3-7-1 IODP 国際委員会・SAS パネル委員のローテーションルールについて
- 資料3-7-2 IODP 国際委員会・SAS パネル委員の選出方法(過程)について
- 資料3-7-3 IODP 国際委員会・SAS パネル委員の国内手続きについて
- 資料3-7-4 IODP 国際委員会・SAS パネル委員のローテーション表
- 資料3-8 SPC 委員公募要領(案)
- 資料3-9-1 NanTroSEIZE Staffing call_V2
- 資料3-9-2 「南海航海の乗船者の選考について2」[メールより引用]
- 資料3-9-3 南海掘削キャンペーン案
- 資料3-9-4 IODP Staffing Procedures
- 資料3-10 ISC2006 展示レイアウト(案)
- 資料3-11 J-DESC News Letter Vol. 01 目次(案)

参考資料

参考資料1 J-DESC・専門部会委員名簿

参考資料2 IODP 国際委員会・SAS パネル委員名簿

議事内容

1. 報告事項

国際 SAS 関連

(1) SASEC 委員選出報告：鈴木部会長

鈴木部会長より、SASEC 委員として河野氏（東京工業大学）が選出されたことが報告された。

また、阿波根執行部委員より、7月4日に開催された SASEC 事前打ち合わせの報告がなされた。

(2) SPC 委員選出報告（公募結果）：事務局

公募の結果、佐藤氏（神戸大学）より応募をいただき、現在 IODP-MI への推薦を行っているとの報告が事務局よりなされた。佐藤氏は、8月の第8回 SPC 会議よりご出席していただく予定。

(3) SPC 代理出席者報告：事務局

事務局より、次の SPC 会議を欠席される委員の代理として、山崎氏（AIST）が出席されることが報告された。

乗船関連

(4) New Jersey 追加乗船研究者募集結果：荒井、阿波根、事務局

標記の件について、阿波根氏より募集状況の報告がなされた。

今回の MSP の日本枠は6名（ESO との協議により設定）となっており、ESO より求められている研究者の専門分野は以下の通りとなっている。

- ・Sedimentologist：2名（内定済）
- ・古地磁気学：2名（うち J-DESC アジア枠として K-IODP より1名）
- ・地球化学（間隙水科学）：1名
- ・Physical Properties：1名

日本人研究者残り3名の追加募集を行っているが、現在のところ応募はない。適任者がいれば即時検討していくこととする。

(5) 「ちきゅう」下北沖試験航海協力研究者の募集結果報告：荒井、事務局

標記の件について、荒井氏より募集状況の報告がなされた。

- ・CDEX より、NanTro SEIZE 関係者（Co-Chief 等）を対象とする乗船推薦が行われている。
- ・科学計測部会による部会独自の乗船推薦が、CDEX に対して行われている。
- ・K-IODP へも J-DESC を通じて乗船を呼びかけており、応募が来ている。

また、川村氏（CDEX）より以下の説明がなされた。

- ・J-DESC とは別に、JAMSTEC 乗船者枠を使用して国内研究者を乗船させる可能性がある。
- ・試験掘削でのコアは、原則公開は行わない。（共同研究として公開する可能性はある）

（ 6 ）乗船研究者アンケート結果報告：阿波根、事務局

標記の件について、阿波根氏と事務局により報告がなされた。

- ・本アンケートについては、内容を吟味した上で、何らかの形で公開していきたい。
PMO に報告する等、公開だけではなく結果を生かすことも重要である。
問題点等を各航海の代表者により総括してもらい、議論できる場を設けたほうが良い。

IODP 研究支援関連

（ 7 ）IODP 掘削プロポーザル作成支援（AESTO 実施）の経過報告：事務局

標記の件について、事務局により報告がなされた。

- ・プロポーザルは、現在 3 件の応募が提出されており、科学推進専門部会にて審査を行う予定。
- ・IODP 国内科学委員会にて最終的な採択件数と、支援金額を決める予定。

（ 8 ）会員提案型活動経費上半期の募集結果報告：事務局

標記の件について、事務局により報告がなされた。

- ・上半期の募集では 8 件の応募があり、合計金額が当初予算を上回るものとなった。
J-DESC 加盟機関以外からの応募についてはどのように対応するか検討の必要がある。
- ・申請金額等の審査は、今後、会員提案型活動経費選考委員会へ依頼する予定。
- ・会員提案型活動経費選考委員会の委員長ポストが選出基準に従い不在になったため、石橋氏を委員長とする事務局案を提案。
委員長候補は引き続き検討することとする。

普及／広報活動関連

（ 9 ）IODP Australian Workshop について：石橋

標記の件について、石橋氏により説明がなされた。

- ・WS の詳細情報については不明だが、開催の場合は、誰かに参加してもらおうほうが良いと思われる。
詳細情報が分かり次第、検討することとする。

（ 10 ）IODP 大学&博物館キャンペーン（番外編；信州大学）について：事務局

開催済みと開催予定のキャンペーンについて、事務局により報告がなされた。

- ・今年度は、4 件のキャンペーン（うち 1 件開催済）と 2 件の番外編キャンペーンが開催される。
- ・信州大学のキャンペーン番外編では、北里氏が講演を行う予定であり、他のキャンペーンでの講演者については、事務局にて検討中である。
- ・大分高校での番外編キャンペーン開催については、現在予定を調整中である。

- ・今年度は、JAMSTEC 普及広報によるキャンペーンの荷物の輸送費が支出されることになった。ただし、開催地間での運送（大学～博物館）等は、開催機関での負担をお願いする。

(1 1) J-DESC 新ホームページについて；事務局

標記の件について、事務局により説明がなされた。

- ・新 HP のテスト版が既に公開されており、執行部の意見を収集の後、本公開を行う予定である。
（新ドメインは、www.j-desc.org となる）
- ・HP 上で乗船申請が出来ないかとの要望をうけているが、システムの構築には時間がかかる。
- ・コンテンツ制作、セキュリティ対策の部分で、当初予算をオーバーしている。
- ・新 HP の英語ページは当初より準備できるが、中国語、韓国語ページの整備には時間がかかる模様であり、当面は日ページへリンクする方式としたい。
現ページの多言語構成は評判が良かったため、掲載項目を絞るなどして多言語対応することを検討する。

2 . 審議事項

国際 SAS 関連

(1) 国際 SAS 委員会・パネル委員ローテーションルールについて；佐柳、山田、阿波根、事務局

標記の件について、佐柳氏より現状の課題とローテーションルール（案）の説明がなされた。

- ・委員ローテーションにおいて、以下の項目についての再確認と検討を行う必要がある。
委員の任期について（任期延長の扱い等）
委員の交代のプロセスについて（選出、承認等）
ボランティアベースとなっている委員の扱いについて
今後の委員候補の育成について（人材確保）
- ・ローテーション（案）は、執行部会にて承認した後、正式版を各専門部会、国際パネルの委員に配布する。
- ・委員のローテーションは、国際パネル委員、専門部会、執行部および事務局との間の緊密な連絡のもと、各パネルの事情に配慮したローテーションルールに従って対処されるようにしていく。

(2) 次期（2007 年 9 月期）SPC 委員の公募について；事務局

2007 年 3 月期で退任される 2 名の委員の後任公募について、事務局より説明がなされた。

- ・後任委員の専門分野については、前任委員と同じ分野を希望する。
公募の際は、前任委員の専門分野に地球物理学を加え、候補者を幅広く募集する。
- ・2007 年 3 月期の会議へのオブザーバー出席を、公募の条件に加える。
- ・公募締切は、事務局にて決めることとする。

乗船関連

(3) NanTro SEIZE Workshop の対応について：石橋、阿波根、事務局

NanTro SEIZE の計画状況について、石橋氏より説明がなされた。

- ・部会が行う乗船希望者へのランキングについて、Co-Chief より提案が来ている。
乗船研究者公募の準備を IODP-MI が進められているが、まだ正式なアナウンスがないため、J-DESC として動くことは、まだできない。
- ・2007 年 9 月よりの航海スケジュールは決まっているが、米国の SODV 改造のスケジュールが不確定なため、米国側の航海スケジュールに影響が出る恐れがある。

また、本航海の Co-Chief である木下氏より、検討しているキャンペーンの説明がなされた。

- ・乗船研究者確保と広報のため、各地での広報キャンペーン、公募説明会の開催を検討している。
J-DESC 主体での開催はできないが、協賛による J-DESC ホームページ、メーリングリスト等での WS 開催のアナウンスの支援は可能である。
本航海は、重要な位置づけであるゆえ、J-DESC として最大限の支援を行う。
- ・適正な乗船研究者の選出のため、IO と Co-Chief による最終選考が行われる際に、応募者のプレゼン大会の開催を検討したい。
専門部会は、乗船研究者のランキングにおいて、Co-Chief の要望・意見を考慮し、公平かつ適正なランキングを行う。
National Office でのランキングに Co-Chief が関わっているは、国際的に日本だけであるが、行われていない国では、乗船研究者と Co-Chief とのニーズのミスマッチ等の弊害も起きている。

その他、以下の議論がなされた。

- ・JR で行われている Teacher at sea の日本版を検討してはどうか。
「ちきゅう」の空き定員を利用した乗船は可能である。
国内の教師（高校） 修士学生、およびアジアの学生・若手研究者を対象とした乗船プログラムを CDEX と検討する。

普及/広報活動関連

(4) 第 2 回 IODP 報告会について（開催場所、日程など）：石橋、白井、阿波根

標記の件について石橋氏より説明がなされた。

- ・高知での地質学会に合わせた開催を検討したが、同学会では小集会や巡検が多いため、制約が多い。
11 月頃で東京近郊開催を前提に各パネルへ意見を伺い、事務局として案を出す。

(5) 次回 SSEP 会議（札幌）について：石橋

標記の件について石橋氏より説明がなされた。

- a) リエゾンとして丸山明彦科学推進部会長に出席いただくことの承認
丸山科学推進部会長の出席について説明がされ、了承された。
- b) 大学院学生のオブザーバー参加の可能性の議論

・NSF では、組織マネジメントを体験するプログラムとして、国際会議に大学院生を 10 名程度招いているが、日本でも行ってはどうかという提案が科学推進部会よりあった。

学生の場合は、所属機関、IODP-MI 等に許可を得る必要がある。

学生に対し、サイエンスの分野におけるマネジメントを学ぶ場を提供することは、重要である。

(今後の検討のために、試しに会議開催地の札幌の大学機関を対象に、10 名程度の参加を呼びかけることを IODP-MI 札幌オフィスと検討していく)

(6) ISC2006 (国際堆積学会) J-DESC 展示ブースについて : 事務局

連続した展示ブースにおいて、JAMSTEC、IFREE、CDEX、高知コアセンター、J-DESC が IODP に特化した展示を行う予定との説明が事務局よりなされた。

IODP/ICDP との連携をアピールするために、陸上掘削関連の展示も行ってはどうか。

過去の Expedition 報告を、数枚のポスター展示にて行ってはどうか。

(7) IODP 日本版のパンフレットについて : 事務局

事務局より、IODP パンフレット発行に関について説明がなされた。

・IODP 日本語版パンフレットを作成するよう IODP-MI の E&O に以前から依頼しているが、なかなか作成してくれないので、J-DESC から依頼して欲しいと委員の方から要望があった。

10 月に IODP-MI E&O の会議があるため、J-DESC よりの作成要望は、時期を見て検討する。

それまでは保留とする。

・CDEX 発行の IODP パンフレットが増刷される際に、J-DESC の紹介をあわせて掲載してはどうか。

掲載してもらおう方向で CDEX と協議し、事務局にて準備を行うこととする。

(8) J-DESC News Letter について : 事務局

事務局より、J-DESC News Letter の発行準備について説明がなされた。

・現案の 16 項という量は、初版としては多すぎるため、後々に内容の充実を図る方向で検討し、初版はこの半分程度とする。発行は年 2 回を目標とする。

・紙面デザイン等の著作権については、製作会社と検討し、J-DESC に帰属するようにしたほうがよい。

・ニュースレターは、電子ファイル (PDF) として J-DESC HP での公開も行う。

3. その他

(1) その他の報告事項など

6月30日に開催された事前調査専門部会について：荒井氏

- ・プロポーザル作成者に向けて、プロポーザル作成時に参考となる下記内容のコンテンツを、J-DESC HP へ掲載してはどうかという提案が部会よりあった。

プロポーザルを作成する際の How to 資料

物理探査データ (Seismic 等) を扱う HP へのリンク

事前調査に関する機器の用語説明集

質問がある場合の連絡先

(科学計測部会にて原案を作成し、事務局にて HP への掲載を準備する方向で検討する)

(2) 次回、執行部会日程

- ・8月頃にメール会議を行い、その際に次回の部会について検討する。

以上